

# いのちの言の葉2013

富山県教育委員会平成25年度いのちの教育総合支援事業

## 「ヒロシマのこと」

富山市立奥田中学校

平成26年2月18日実施

### 【授業の概要】

ヒロシマでの悲慘な出来事についての説明

- ・原爆投下で人々がどうなったのか
- ・どんな状態だったのか
- ・かけがえのないいのちを大切にしてほしい
- ・困難に立ち向かい生きる力をもってほしい

原爆が落とされたといっても、こんな苦しい思いをしていたなんて全然知りませんでした。一部の写真を見ただけけれど、人々はどうにもできない苦しみの中で、生きてきたのだと思いました。今の時代、私たちは嫌なことがあると、すぐに「死にたい」とか「死ね」とかそういう言葉が口から簡単に出てくるけど、私たちのつらさと原爆を落とされた人たちのつらさは、比べられないと私は思いました。だから、つらくても前向きに生きていきたいと思いました。こんな大変な思いをする戦争は、あってはいけないと思います。何のために戦争をするのだらうと思いました。



全く予想も想像もしていない中での原爆投下によって、たくさんの人々がぎせいになり、現実も分からないまま亡くなった人も少なくはない。そして、その後に痛々しい傷口や家族を失った悲しみを知るようになった人々。それでも、未だに戦争を続けている国があるというのは、分かっていないのか、分かっているのにやっているのかは分からない。現実社会の中にいる私たちに何ができるのか、それを考えていくべきだと私は思います。未来のために争いやテロをなくすこと。私たちに本当に平和な世界を作り出すことができるのか、私としては考えていきたい。

## 【いのちの先生】

橋本 哲先生

・富山子どもの文化を育てる会会長

被爆した人や放射能をあびた人の姿をみると、今ってすごい平和なんだなと思いました。自分が思っていたよりも、ずっと残酷で、ずっと悲しいものなんだと思いました。「戦争」や「原爆」などの言葉が、どれだけ辛くて、苦しくて、悲しくて、恨みたくなるようなものだという事を知った今、自分がこうして普通に過ごしていることが、どれだけありがたいことか改めて分かりました。普通に友達としゃべって、普通に家族とご飯を食べて、なにげない毎日の中にある「普通」は、当時のヒロシマにとって、とてもすてきなことだったのだなと思いました。



私は最近、戦争についての映画を観てきて、戦争についてもっと詳しく知りたいと思っていました。橋本さんのお話の中で、原爆の恐ろしさについて話されたところがあり、原爆は落とされた場所の近くではなくても、たくさん被害があると聞いて、とても恐ろしいものだと知りました。全身をやけどしたり、放射能で死亡してしまった方がいらっしやるのを聞いて、日本では今も放射能の問題についてのニュースが流れており、放射能の恐ろしさを知ることができてよかったと思います。戦争では、人の命が一瞬にしてなくなってしまいます。私たちは今、すごく恵まれた環境で生活できているので、それに感謝し、生き物全ての命を大事にしないといけないと思いました。